

研究者リーダーシップ・プログラム

「第8回 プログラムを振り返って（プログラム総括）」参加レポート

研究者リーダーシップ・プログラムの最終回は、「プログラムを振り返って」というテーマで行われました。参加者が一人ずつ、プログラムを受講してどのように感じたか、日常生活や研究活動にどのように取り入れているかを共有しました。

私自身、本学に着任した際にポスドクから特任助教へとポジションが変わり、研究に専念する立場から異なる役割を求められる立場へと移行しました。その変化を受けて、本プログラムへの参加を決めました。また、最近ライフステージの変化を経験し、ワークライフバランスをより意識するようになったため、本プログラムは絶好の機会だったと感じています。特に、ワークライフバランスに関するセッションやコーチングの会は、実践的で非常に参考になりました。

プログラム全体を通して、個人的には、一般論を聞くよりも具体的なケーススタディを共有する機会があればより良いと感じていました。その点で、最終回はまさに各参加者の経験を共有できる貴重な場となり、大変有意義でした。

本プログラムには、さまざまなライフステージ・ポジション・専門分野の方々が参加していました。研究から少し距離を置いたとき、多くの人が共通の悩みを抱えていることがわかり、今回では、講義の課題、研究室運営、学生指導、チームマネジメントといったテーマが共有されました。どの立場の人でも悩みを抱えているのだと実感できただけでも、大きな収穫であり、安心感を得ることができました。また、他の参加者の悩みを聞くことで、「今後自分も直面するであろう課題を事前に知ることができた」という意見もあり、ケーススタディとして非常に有益な回だったと思います。

私は対面開催の回には参加できませんでしたが、このような場がオンラインだけでなく、対面でも活発に行われることは非常に貴重だと感じました。今後も類似のプログラムが開催される際には、可能な限り参加したいと思えるような、充実した最終回でした。

(嵯峨承平・名古屋大学高等研究院/素粒子宇宙起源研究所 YLC 特任助教)